



昭和の日なんて (恥ずべき歴史)

5月①のごあいさつ
山内公認会計士事務所
2021年4月30日(金)

うかつな話だが、4月29日は「みどりの日」の休日とばかり思っていた。ところが14年も前に「昭和の日」に変えられていたのだ。

「昭和」という時代は、日本の恥ずべき日々である。それは世界に対しても、日本国民に対しても反省すべきことが多すぎる時代であった。

植物好きだった天皇のための必要もない休日だと思っていたが、2007年より「昭和の日」に変更されていたのに気が付かなかったのは、うかつの至りであった。何故、戦争犯罪者である元天皇の誕生日を記念するのかおかしいと常々思っている。

日本書紀以来、天皇を国家元首としたり、天皇家個人の歴史を国の歴史のように扱うのは常識はずれであり、全くおかしいと思っている。

天皇家の歴史自体は、国家としての日本が取扱うのではなくて、天皇家が個人的に扱うのが当たり前である。

日本に文字が無かった時代の言い伝えを「日本書紀」とか、「古事記」とかの神話で語るのは文学的に自由であるが、それを日本の歴史とするのは、戦前の日本の非常識であった。

しかし戦後はそういうものから脱却したい、すべきである。

日本に文字が無かった時代、邪馬台国や倭国の歴史事情は、中国の正史である後漢書や三国志の魏志倭人伝、或いは、朝鮮の広開土王の碑などに記録されている史実によっている。

実在していた邪馬台国連合やその女王卑弥呼は史実である。しかし、それらを歴史的にその存在が、証明されてもいない天照大神や神武天皇と並べられては我慢ができない。

古事記や日本書紀の神話として扱うのは自由かもしれないが、日本国の正史として扱うのは正気の沙汰ではない。

そのような日本の歴史が、世界的な誤り、太平洋戦争を起こし、世界の嫌われ者になったのは、つい最近のことである。現在はその喪に服している時期でもある。

その時期に天皇制を維持するような試みや皇帝崇拝にも似た風潮をかもし出し、「昭和の日」なんていう休日を設ける理由が解らない。

かつて、敗戦の日(1945.8.15)を一日でも引き延ばそうと遅らせたために、1945年の敗戦年のみで、沖縄戦の死者160,000人、広島・長崎の死者210,000人を生んだ出血作戦の被害を思い起こすべきである。